

平成 24年度センターご利用状況 (11月末日現在)	
登録団体数	136団体
会議室利用件数(延べ)	1,565件
利用人数(延べ)	20,020名

## 第5号の内容

### 【第1面】

#### 主催講座の開催報告

- ・広報力アップ講座
- ・いきいきシニアボランティア講座

### 【第2面】

- ・NPOって何だろう!?
- ・万里一空(コラム)

### 【第3面】

- ・地域ではぐくむ子どもたち

### 【第4面】

- ・ボランティア・NPO 団体パネル展開催報告
- ・団体ファイルを設置しています
- ・編集後記

## 広報力アップ講座 ～伝えるコツ、お教えします！～を開催しました！



講師の金治宏さん



参加者の皆さん。大変熱心に受講されていました。



平成 24 年 11 月 25 日(土)に、大阪ボランティア協会で、市民活動総合情報誌『Volo』の編集をされている金治宏(かなじ ひろし)さんを講師に招き、「広報力アップ講座」を開催しました。

講座の前半では、ボランティアやNPO、地域自治組織などにおける広報の重要性やコツについて講義形式での解説があり、講師自身が見聞きした生の情報や、実際に情報発信を行うときの注意点などを説明していただきました。

後半は3班に分かれ、1枚のチラシを例にして、問題点や効果的にPRする方法を話し合っ発表する、実践的なスタイルでのワークショップを行いました。

受講された皆さんからは「大変参考になった」とか、「資料を今後活かしたい」といった声をいただいたり、講座の終了後も講師に質問をされる方がいらっしゃるなど、皆さんにとって有意義な時間となったと思います。

## いきいきシニアボランティア講座を開催しました！



講師の梅田純平さん



当センターコーディネーターによる自身のボランティア体験の発表



グループワークでは、皆さんの参加した動機や希望する活動を伺えました。

平成 24 年 12 月 1 日(土)に大阪ボランティア協会の梅田純平(うめだ じゅんぺい)さんを講師にお招きし、「いきいきシニアボランティア講座」を開催しました。

講座前半は、講師からシニア世代におけるボランティア活動の特徴や様々な活動事例が説明され、受講された皆さんは活動で必要となる知識について熱心に聞き入っておられました。

また、講座の後半には当センターボランティアコーディネーターがボランティア体験発表を行うとともに、受講者同士の交流を深め、活動先を考えるグループワークに加わり、これからボランティア活動をはじめするためのお手伝いをさせていただきました。

# NPOって何だろう!?

## お金を稼いでもいいの? ~NPOの非営利性とは~



NPOでは、サービスの利用料や物品などの販売の売上げで利益を得てはいけないと思っている人が多いようです。「非営利組織」という呼ばれ方から、無償というイメージを持たれやすいのかもしれませんが、事業を通して収益をあげているNPOもあります。NPOは、利益を生む活動や有償の事業にも取り組める組織なのです。

NPOにおける「非営利」とは、「営利を目的としない」ことを意味し、収益が出た場合に、それを資金として次の事業に活用することです。つまり「NPOに入ったお金を全て、事業や活動に使う」ことは問題ありません。組織を存続させるためには、お金が必要です。収益を上げられるときに上げておかないと自分たちの活動や組織を持続することも難しくなるかもしれません。

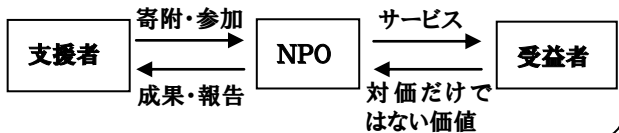
ただ、収益の使い道には制限があります。NPO法では、収益を構成員(NPO法人の場合、役員、※社員等)に分配することができないので、収益は私的に配分せず、すべて団体の活動に再投資しなければなりません。

「営利組織」である企業の特徴とは異なります。多くの企業は原則的に営利を追求し、生じた利益は構成員(株式会社の場合、株主等)に分配することができます。NPOは、収益を構成員に分配せず、ミッション(使命)実現に向けた活動のために用いる組織だといえるでしょう。※社員とは、一般的な会社員などのことではなく、総会の評決権を持つ会員のことです。

### 企業 ⇒ 配当・利益の拡大



### NPO ⇒ ミッション(使命)の実現



# 万里一空

第5回

## 「青年の頃の想い」

ボランティアコーディネーター 上本里美



30年ほど前、私が若い頃はたくさんの夢や希望をもって、住んでいた地域は普段静かな村なのに、地元青年団活動などの社会活動が盛んに行なわれていた。夜の公民館にはいつも明かりがとまり、私は仲間とともににぎやかに地域新聞をつくるなど熱心に活動に励んでいた。

「なぜあれほど地域の活動に夢中になれたのか?」と今になって思う。それは「育った地域を愛し、よりよくしたい。」という強い想いを仲間と共有していたからだろう。

今、私がボランティアコーディネーターという立場で感じるのは、ボランティアやNPOの活動には青年時のように現状をよくしたいという気持ちが不可欠なのだと思う。

センターを訪れる方には、退職後に社会貢献のためにボランティア活動をはじめの方や、被災地支援にかけつけたいと思う方など様々な想いがあり、青年時のような熱い気持ちを感じ取ることができる。

そして、社会を見渡せば、東日本大震災などの度重なる自然災害や就職難、高齢社会の到来などこれまでの価値観を変えてのぞまなければいけない問題が多くあり、それらに対応するには「他者の気持ちを理解し、現状をよくしたい」という強い人間力が求められている。

私自身もNPOの活動に参加し、環境との共生を図りながら地元産業を発展させることに課題意識を持っている。そして、自分が青年だったころを振り返り、力強い人間力を取り戻し、それらの課題に取り組んでいきたいと思う。



## 地域ではぐくむ子どもたち

三笠はひとつ  
三笠は奈良のまほろば



三笠中学校区地域教育協議会  
総合コーディネーター 金野 秀一さん(左)  
地域コーディネーター 今村 教子さん(右)



今回は三笠中学校を訪問して、地域が一つになって、子どもたちを育てる取り組みについてお話を伺いました。

一三笠中学校区地域教育協議会のこれまでの経緯についてお聞かせください。

(今村) 3年前に協議会が設置されました。それまで各小学校や幼稚園では地域との関わりは深かったのですが、もっと広い中学校区としての関わりはあまりありませんでした。そこで、一つの中学校区としての意識を高めるための活動に取り組み始めました。1年目から各学校などの文化行事を集めた「なら三笠まほろば文化祭」を開催し、また、子どもたちと地域の人と一緒に自分たちの夢やしたいことについて話し合う「子ども未来会議」も開催しました。



伝統文化に触れ合う機会にもなる



地域の園児や小中学生が一同に舞台上で合唱する

一「なら三笠まほろば文化祭」の開催にはどういった意味があるのでしょうか？

(金野) この文化祭は、地域が誇る「なら 100 年会館」という文化施設で、地域の保育園、幼稚園、小中学校の音楽的な文化行事を中心に発表してもらおうとともに、地域の人たちにも発表してもらっています。みなさんも年間行事に入れて、それに向けて頑張ってくれているようです。この試みは、「なら三笠まほろば文化祭」という大きな行事を行うことで、『三笠はひとつ』という一体感を強く持ってもらいたいという思いで開催しています。

一子ども未来会議はどういうことをするのでしょうか？

(金野) 会議では、いくつかの議題について各小学校の高学年の子どもたちと地域の人たちでワークショップを行ない、各テーブルの司会は中学生が担当して進めています。地域の人も子どもたちも積極的に意見をだし合い、それらをパネルに張り出して話を深めていきました。

(今村) 1年目の時に子どもたちから「思いっきりドッジボールをしたい。」という声があがり、それを叶えてあげたいということで2年目には各小学校の子どもたちを集めて中学生と地域の方々に協力してもらい、ドッジボール大会を開催することができました。



各テーマについて校区ごとの様々な意見が掲示される



ワークショップの様子



各小学校の生徒が混じり合ったチームで戦う

一最後に、三笠中学校区地域教育協議会の特徴はどういった点になるのでしょうか？

(金野) 子どもたちには、中学生までの間に「三笠で育った」という郷土愛を築いてほしいという思いを持っています。なので、地域から学校への支援と同時に、学校から地域への貢献もしてくれています。先日行なった地域の防災訓練にも、中学校の先生と生徒が椅子運びや運営を手伝いに来てくれ、地域の人たちも中学生の働きぶりに感動されていました。地域と学校が互いに協力する良い関係ができていると思います。

(今村) 協議会に自治連合会長のみなさまや各小学校区のコーディネーターを中心に地域の方々、校長先生、担当の先生などが加わって、取り組んでいる校区は少ないと思います。他の小学校区の方とも関係を築け、また子どもたちにとってもドッジボール大会などの行事を通して違う小学校の友達と接することができ、4つの小学校区の垣根が低くなっているように感じます。

## ボランティア・NPO団体パネル展を開催しました！



約3ヶ月間(6月7日～9月10日)ボランティア・NPO団体の方々(40団体)にご協力いただき、パネル展を実施することができました。市民の方々からも「様々なボランティア活動があり、興味を持てた。」という声が寄せられ、市民公益活動を具体的に知っていただく良い機会になったと感じました。

その際、展示団体の方々にパネル展についてのアンケートを実施し、そこから団体のニーズを把握することができました。

今後のセンターの企画に十分に活かしたいと思っております！

(参考)アンケート結果の一部抜粋

○出展した感想…

- ・市民へのPRとなった。
- ・他団体とも親しくなることができた。
- ・集客が少なく、その点をもっと検討してほしい。など

○同時開催してほしい催しについて…

- ・団体同士の交流会を開いてほしい。
- ・活動の報告会を実施してほしい。など

※詳しいアンケート結果は奈良市ホームページに掲載しておりますので、そちらをご参照ください。



## 団体ファイルを設置しています



当センターでは、登録団体の情報発信のお手伝いとして各団体のファイルを設置し、市民の方々に閲覧していただけるよう開架しています。団体の方々はこれまでのイベントチラシや活動報告などの資料をどんどん追加してください。また、市民公益活動に興味のある方は是非お越しいただき、ご覧ください。



## 奈良市ボランティア インフォメーションセンター

〒630-8122

奈良市三条本町13番1号

はぐくみセンター1階

開館時間: 9:00～21:00(月～土曜日)

9:00～17:00(日曜・休日)

休館日: 年末年始

TEL: 0742-93-8435

FAX: 0742-34-2336

MAIL: [volunt-info@city.nara.lg.jp](mailto:volunt-info@city.nara.lg.jp)



※駐車場の駐車台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。(満車の場合は、周辺の有料駐車場をご利用いただくようお願いします。)



奈良市ボランティアインフォメーションセンター

検索



### 【編集後記】

「団体ファイル」で情報公開をされる団体が100を超えました。開館当初から考えると、かなり充実したと感じています。団体ファイルのある「情報コーナー」には、助成金やボランティア募集といった市民公益活動の情報や、書籍がたくさんあります。日曜・休日でも開館していますので、お気軽にお越しください。